

認定特定非営利活動法人 日本雲南^{れんぎ}聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん 検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社/デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第56号

発行日 2016年(平成28年) 2月15日

会
報

恭賀新春

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

皆さんのご支援により、昨年は少数民族の子ども達の為に「50の小学校」プロジェクトで昨年25校目の小学校が完成しました(本年開校式)。また「25の小さな夢基金」では第10期生98名が入学、これ迄に支援した女子高生は560名を超えました。有難う御座いました。

現在私たちは地球温暖化、地域紛争、資源の枯渇と争奪など、今までに私達が経験したことのない幾つもの大きな問題に直面しています。特に大きな心の傷を負っているのは子供達です。住む家を追われ、勉強の機会を奪われ、飢餓や紛争で命までも落としているという悲惨な

現実を前に私達は心を痛めています。世界の子ども達の身に降りかかるこの不平等が地球上から無くなり、全ての人々が平和・平等・博愛の下に互いに助け合い暮らせる日が来ることを私達は祈っています。

日本雲南聯誼協会は雲南の貧しい少数民族の子ども達の教育を15年間支援して参りました。私達の理想をすることは、子供達への教育の機会を支援することにより、他者への思い遣りのある豊かな心を持った良識ある地球市民を1人でも多く育てることです。理想が無ければ何処にも進むことは出来ません。しかし理想があれば僅かずつでも前進することが出来ると私達は信じています。

協会は支援終了後も子供達と継続して交流を続けています。支援を受けた子供達はそれを決して忘れることはありません。彼ら彼女らは雲南の地で小さな一粒の種となって花を咲かせ、その花から更にまた種が出来て花が咲き、私達の理想が雲南の子供達を通して少しずつ実現されています。

昨年私達の祈りもむなく他界されたサッポロホールディングス株式会社元代表取締役社長で協会の岩間辰志顧問は長期間に渡って力強く協会の支援して頂きました。岩間顧問は常に博愛の精神と教育の大切さを私達に教えてくれました。協会は岩間顧問の遺志を引き継ぎ、今まで以上に雲南省の子供達の為に活動を発展

させていきたいと思っています。

地球家族の一員として活躍していくことが出来るように私達は頑張っていきたいと思っています。

本年も皆様のご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

平成28年1月吉日
日本雲南聯誼協会理事長
初鹿野 恵蘭



大宮支部よりご挨拶

皆さんに支えられ9年目 今年も頑張ります！

会員、ボランティアの皆様におかれましては素晴らしい新年を迎えられたことと存じます。日頃のご支援に深く感謝致します。

発足して今年で9年目の大宮支部は、毎年国際交流イベントへの出展や写真展を中心に活発に活動しています。また春節パーティーなどでは会員やボランティアの皆様と積極的に交流活動を行っております。これらのイベントでは雲南の少数民族文化を理解してもらうため、皆様にきれいな民族衣装を試着して頂き、雲南少数民族の雰囲気を楽しんでいただいています。大人も子供も嬉しそうに民族衣装を身にまとう姿を見て、私たちの地道な活動は必ず将来につながるものと確信しております。

この様なイベント以外にも特に雲南の食文化を皆さんと楽しみながら、雲南と協会及び支部



▲「さいたまふれあいフェア」にて出展の活動についての理解を深めています。以上のような活動を通して、私達大宮支部は日本雲南聯誼協会の活動を埼玉からサポートし、協会本部と一体となって雲南の少数民族の子どもたちの教育支援を続けております。

雲南からやってきて何も知らなかった私ですが、皆様に支えられこれまで活動してくることができましたことを改めて心より感謝申し上げます。

今年も皆様にとって良い一年となるよう心からお祈り申し上げます。本年も会員、ボランティアの皆様のサポートをお願い致します。



平成28年1月吉日
大宮支部長
寺内 明子

名古屋支部よりご挨拶

慶賀新年

「有縁千里来相会」

(遠く離れていても縁があれば知り合える)

この警句は、昨年の忘年会で見事な中国武術を披露された張成忠氏(名古屋市在住)の名刺に記されています。この言葉は、張氏のお人柄を偲ばせるだけでなく、当協会の活動そのものを象徴しているようにも思えます。

雲南は、日本から遙か遠く離れた地ですが、協会の活動を通じて、たくさんの会員と子どもたちが繋がっています。わけでも、春蕾の生徒さん達とは、手紙のやりとりで、家族のように心が繋がっています。その陰には、黒子となって翻訳のボランティアをしてくださる方々がいらっしやることを思い、この場を借りて感謝申し上げます。



▲「25の小さな夢基金」は翻訳チーム「百合の花」を始め大勢の方のご支援に支えられています

そして、ボランティアの方々や会員の皆さんの善意が、表に出ないところで結びつき、日中にまたがる真の「草の根」交流活動になっていることを、心から喜びたいと思います。「草の根」の協会から、「葉」である少数民族の子どもたちに、「より良い学び」の縁(円と真心)が届けば、今年も意義のある年になるでしょう。

平成28年1月吉日
名古屋支部長
近藤 銀一



雲日国際大学生協力会よりご挨拶

新年を迎えるこの時期に、協会の会員の皆さまやボランティアの皆さまが楽しい新年を迎えられることを、心よりお祈りします。皆さまがこれまでに雲南省山間部の子どもたちへの温かいご支援にたいへん感謝しております。

振り返ってみると、2年前に初めて春蕾班の日本語教育に携わり、初めて教師としての幸福感を味わうことができました。春蕾班の皆さんは授業終了後が明るくて可愛く、授業中は素直で真面目でした。あの知識や真理を探索しようとする瞳、あの頑張っている姿を見る度に、私はいつもいろいろなことを考えさせられました。

この子どもたちは素質も良いし、努力も怠りません。そしてそれぞれの夢を持っています。彼女



▲日本に留学中の張豊さん(左)と共にグローバルフェスタでボランティア活動

たちの夢の実現のために、協会のすべての会員やボランティアの方は一步一步努力を重ねています。「25の小さな夢基金」も着実にその力を発揮しています。協会4代目の大学生協力会会長として、私は引き続きできる限りの努力をし、大学生ボランティアの皆さんを率いて春蕾班の子どもたちの為に有意義なカリキュラムを構築します。そして、大学生ボランティア同士の交流と協力を進め、より多くの大学生に協会の豊富で多彩な活動に参加してもらい、思いやりと責任感を持って、雲南省の山間部の子どもたちの夢の

実現のために、協会のすべての会員やボランティアの方々と共に一步一步努力を重ねて行きたいと思っています。「25の小さな夢基金」でも着実に成果を発揮し、それと同時に、インターネットを利用してより多くの人たちに日本の優れた文化を知ってもらい、協会のことをもっと知ってもらいたいのです。

協会と共に活動するのは三年目に入りますが、私の心の中は常に変わらず温かさや感動に満ち溢れています。そして、新たな一年において、協会はこれまでと変わらぬ生氣と活力に満ち溢れることをお祈りします。



平成28年1月吉日
雲日国際大学生協力会
第4代会長
雲南大学日本語学科3年生
李瑞穎

雲南省雲南支部よりご挨拶

2015年、協会は設立15周年を迎えました。この一年は協会の歴史にとって特別な一年でした。「アジア未来への人材育成プロジェクト」、「25の小さな夢基金」など順調に活動することができました。私たちは、わずかな力でも雲南の山あいに住む子供たちに愛と希望を伝えることができると固く信じています。協会のこれまでの実績は、皆様の知恵と愛情、人につくす心の結晶であり、長きに渡って皆様から賜った支援と思いやりによる成果です。

新しい一年も雲南支部は雲南の貧しい子供たちのために頑張ります。宜しくお願い申し上げます。

雲南支部職員一同



雲南支部職員
秦 徳英さん(左)
劉 泓輜さん(右)

国境を越えた心の絆 —東日本大震災 支援交流プロジェクト終了—

これまでのご支援に
感謝いたします



▲2011年5月20日
女川町立女川第二小学校訪問

市災害対策本部に義援金約60万円を送って本プロジェクトを終了したことをご報告申し上げます。

「今度はわたしたちが助ける番」——震災直後から協会には日本国内はもとより、日本同様に地震が多い雲南からも、温かい励ましとともに義援金が届けられました。

2万を超す死者行方不明者を出すなど、未曾有の被害をもたらした東日本大震災。直後に立ち上げた協会の「東日本大震災支援交流プロジェクト」に寄せられた義援金の総額は3,071,224円（日本国内から1,317,103円、雲南から1,754,121円）に達しました。協会は2014年12月末に義援金受付を締め切り、昨年10月28日、南相馬

遙か遠い雲南の山奥の子どもたちは、被災地で暮らす日本の友達に心細いだろうと励ましの絵やメッセージを書き、昆明のある小学生はお小遣いを募金に回してくれました。雲南支部には昆明市民が自ら義援金を届け、雲南海外聯誼会や昆明帰国華僑連合会などは募金活動をしてくれました。協会も「微力ながら被災者のために何かでき

ば」と同プロジェクトを発足させ、皆さんの思いのこもった義援金50万円ずつとメッセージを、宮城県的女川町立女川第二小と亘理町立長瀬小、福島県の南相馬市立金房小・鳩原小、いわき市立永崎小の5小学校に届けました。

▶雲南の子どもたちからの励ましのメッセージ

▼2011年7月20日 亘理町立長瀬小学校訪問



時間が経つにつれ、私たちは震災のことを忘れがちです。しかし、被災地では今なお17万人以上が避難生活を強いられ、復興への長い道のりを懸命に歩んでいます。一日も早く、被災者の皆さんが安心して暮らせる日が来るよう願っています。

「25の小さな夢基金」ボランティアの昆明初訪問記

来日春蓄生との再会と 支援生徒とのはじめまして



ちの姿がありました。

私と弟が支援する生徒は全員がもう3年生。いずれも入学当時とは顔つきが変わっていましたが、すぐにわかりました。記念撮影した後、春蓄生9人と校門脇の喫茶室へ。来日した生徒とは「旧知」の仲ですが、支援する生徒とは初めはごち

小心者の私が、夢基金サポーターでもある宋愛平さんに同行をお願いして、個人的に昆明に行こうと決めたのは出発の2週間前。目的は、自分が支援する春蓄生に会いたいという願いをかなえるとともに、サポーターの手紙と贈り物を雲南に届け、春蓄生の年賀状などを日本に持ち帰るというミッションを果たすためでした。

昆明市女子中学を訪れたのは12月23日。雲南支部の二人に付き添われ昼休みの学校の門をくぐると、写真でしか見たことのなかった支援生と、8月に日本に来た先生と生徒た

中国語を話せないため、思うようにコミュニケーションが取れなかったという方が正しいかも知れません。

それでも明るい宋さんのペースに皆が次第に引き込まれていきました。3年生に目指す進路を聞いたところ「師範大学に入りたい」「北京の大学に行きたい」などの答えが返ってきました。そんな彼女たちが志望校に入れるようにと願って用意した「合格（ごうかく）」に掛けた「五角（ごかく）」形の箸をプレゼントするなど、楽しい交流時間はあっという間でした。

上原正夫

「25の小さな夢基金」サポーターの皆さんにはお馴染み、事務局の上原正夫さん。上原さんは「独龍江で学校を待つ子どもたち」（初鹿野惠蘭・片岡巖／共著、2005年）を読んで協会を知り、会員に。2013年秋からボランティアとして「25の小さな夢基金」の事務全般を担当しています。今回、上原さんは12月21日から4泊5日で初めて雲南に赴き、昆明市女子中学を訪問しました。



喫茶室で和やかに談笑中



サポーターのみなさんから
生徒への手紙とプレゼント



上原正夫さん（左）と支援している
玉応兒さん（ブーラン族、3年生）



「25の小さな夢基金」9周年記念誌 『未来をつくる彼女たちに』

日本の支援者と紡いだ9年間の未来への記録

雲南に住む少数民族の女子高生を支援するため2006年に始まった「25の小さな夢基金」。これまでの歩みを1冊にまとめた記念誌が刊行

されました。第1期生からの全支援生徒472名の顔写真とプロフィールを収め、この1冊で「25の小さな夢基金」の全てがわかります。全ページオールカラーで、彼女たちの生の学校生活や色鮮やかな民族衣装を楽しめます。そのほか、雲南の美しい風景や厳しい環境で生きる少数民族の暮らしの写真も満載。興味がある方は協会東京本部事務局までお問合せください。



アジア未来への
人材育成
プロジェクト

第4回 日本文化理解研修

役立つ！ 身に付く！ ロールプレイ実践型研修

「日系企業への就職活動に役立つビジネスマナーを学びたい」「教科書にない日本文化を知りたい」雲南で日本語を学ぶ大学生の要望で始まった「日本文化理解研修」も今回で4回目になりました。ビジネスマナーに精通した滝澤崇理事を講師に、協会と提携する雲南師範大学、雲南民族大学、雲南大学滇池学院で研修を行いました。参加学生2名の感想を紹介します。



初めてのネクタイに
悪戦苦闘



参加した学生一人一人に受講証を手渡しました
（雲南民族大学にて）

2年生の時、初めて滝澤先生の研修に参加して、今回で3回目になりました。研修ではお茶を点てたり、ストローを噛んで笑顔の練習をしたり、ネクタイの結び方を学んだりしました。雰囲気は和やかで、時々、笑いもあり、滝澤先生はまるで隣のおじさんみたいで、このような雰囲気の中、ビジネスマナーを学ぶことができとてもよかったと思います。3回も参加していると飽きてしまうと思いますが、次回もとても楽しみです。しかし残念ながら今、私は4年生なので、次回は参加することができません。卒業後、もし他の都市に行っても、時々、元気な滝澤先生の顔を思い出すでしょう。

雲南師範大学日語科4年 金秀茹

この研修を通じて様々なビジネスマナーを勉強しただけでなく、日本文化も体験しました。この研修に参加するのは2回目でしたが、前回と比べて私の知識も増えていたので、



笑顔練習中の
金秀茹さん



王婉婷さん

今回はもっと深く理解することができ、習得した知識も多いです。滝澤先生は優しく、熱心で、ただ資料の内容を講義するだけでなく、ロールプレイや体を動かしての実演など私たちの興味をひく内容でした。私は今、大学4年生で、もうすぐ就職活動が始まります。今回、ビジネスマナーを学ぶことができたのはとても幸運で、今回の研修で得た知識は就職活動や就職してからとても役に立つと思います。

雲南民族大学日語科4年 王婉婷

当協会へのご寄附は最大約50%が税額控除可能!

認定特定非営利活動法人(「認定NPO法人」)への寄附金は、寄附金の総額(その年の所得等の40%相当が限度)が2,000円を超える場合、2,000円を超えた額の40%(所得税額の25%相当額が限度)をその年の所得税から控除できるようになりました。また、従来の寄附金控除(所得控除)を選ぶこともできます。

※控除を受けるには確定申告が必要です。
※この改正は、平成23年1月1日以降のご寄附について適用されます。
ご不明な点がございましたら事務局までお問い合わせ下さい。

認定NPO法人 日本雲南聯誼協会

TEL 03(5206)5260 FAX 03(5206)5261 yunnan@jyfa.org

税額控除方式で個人の方の寄付金から控除される金額

年間1万円の寄付の場合

$$(1万円-2,000円) \times \begin{matrix} \text{国税分} \\ 0.4 \end{matrix} = 3,200円$$

$$(1万円-2,000円) \times \begin{matrix} \text{地方税分} \\ 0.1 \end{matrix} = 800円$$

4,000円

年間5万円の寄付の場合

$$(5万円-2,000円) \times \begin{matrix} \text{国税分} \\ 0.4 \end{matrix} = 19,200円$$

$$(5万円-2,000円) \times \begin{matrix} \text{地方税分} \\ 0.1 \end{matrix} = 4,800円$$

24,000円

確定申告を行うことで寄付金額の最大約50%が戻ってきます。

法人の方の寄付は?

従来どおり、損金算入限度額とは別に、同額の損金算入限度額が設けられているため、通常で2倍の寄付金を損金算入できます。

(注1) 税額控除限度額(所得税額の25%相当額)は、公益社団法人等寄附金特別控除の額と合わせて判定します。なお、政党等寄附金特別控除の税額控除限度額は、これとは別枠で判定します。また、控除対象寄附金額(総所得金額等の40%相当額)及び控除適用下限額(2,000円)は、寄附金控除(所得控除)並びに政党等寄附金特別控除及び公益社団法人等寄附金特別控除の税額控除対象寄附金の額と合わせて判定します。

(注2) その年の寄附金について税額控除の適用を受けようとするときは、寄附金の明細書並びに認定NPOが寄附金を受領した旨、寄附金が認定NPO法人の主たる目的である業務に関連するものである旨、寄附金の額及び受領年月日を証する書類を確定申告書に添付しなければなりません。

(注3) 地方税分は寄附金額の最大10%(都道府県民税4%+市町村住民税6%)の控除を受けられますが、都道府県・市区町村により控除の有無と控除額が異なります。詳しくはお住まいの各市区町村にご相談下さい。

連載

こんにちはCSR

—協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ—

第12回ARTY STUDIO(アーティースタジオ)



アーサー加藤さん



▲web、広告、パッケージデザインなど幅広く活躍されています

私たちが慣れ親しんでいる協会ホームページ。そのデザイン・監修・構築を手がけたのがARTY STUDIO(アーティースタジオ)代表のアーサー加藤さんです。協会を支える欠かすことのできない立役者の一人です。加藤さんは台北出身で、現在WEBサイトのデザインを中心にDVDアルバム製作やグラフィックデザインなどの分野で活躍しています。その中には世界的映画監督である黒澤明のウェブサイトなども含まれています。

協会と関わるきっかけは、偶然手に取った「大上海園」(株式会社技術評論社)というビジネス雑誌で、少数民族への教育支援に

献身的に取り組む初鹿野理事長の記事に目をとめたことだそうです。自身のアジアの子供達へ貢献したいという共通した思いと、人生の転換期を予感し、その足で理事長へ面会を求め協会を訪れたのだそうです。入会後に新会社を設立し、仕事以外に講演などにも引っ張りだこの加藤さん。プロの立場から、今後の協会広報活動に関しても、見る方々の心に響くマルチメディアの幅広い利用方法など、的確な指摘をしてくださいます。加藤さんは支援活動の感動と喜びを知ったことで、今ではネパールやアフリカなどの不遇な子供たちをも支援し続けるだけでなく、協会活動に対しても、

※CSR=Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任): 利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

雲南少数民族の子供たちに明るい未来を!

●1か月コーヒー1杯分で支援ができます

協会の趣旨に賛同し、一緒に活動を支援していただける個人、企業、団体を随時募集しています。

正会員	一口 6,000円 (500円/月)
賛助会員	一口 12,000円 (1,000円/月)
法人会員	一口 18,000円 (1,500円/月)

※正会員と法人会員には総会における議決権がありますが、賛助会員には議決権がありません。
※4月1日から3月31日までを1年度とします。
※年度途中でご入会の場合は初年度の会費は入会月から年度末(3月)まで月割で計算させていただきます。
※会員には会員証を発行し、年4回(2月、5月、8月、11月)、会報誌『彩雲の南』をお送りいたします。

お申し込み

協会公式HP
(http://www.jyfa.org)
yunnan@jyfa.org

支援に参加する

会員になる
ボランティアをする

お問合せ

東京本部事務局

TEL 03(5206)5260
FAX 03(5206)5261

ボランティアも大募集中!

・東京本部内での、会報誌『彩雲の南』発送作業・パソコン文書(日本語・中国語)作成
・イベントスタッフ(展示物作成などの事前準備から当日スタッフまで)
・中国語の通訳/翻訳・会報/ビデオや画像/ウェブサイトの編集

この活動を更に多くの人々に知ってもらい、それを元に中国との民間交流が増していければとの願いも語っておられます。

協会ホームページは3月にリニューアル予定で、勿論加藤さんのデザインです。完成が楽しみです。

会社概要 ■ 2006年4月1日設立。「日本のプロフェッショナルをアジアへ」をテーマにWEBサイトのデザインと構築、グラフィックデザイン、DVD・ロゴ・パンフレット作成、中国圏向けビジネスとして中国語通訳・翻訳、現地コーディネイトなど幅広く展開している。
本社所在地
〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠3-21-1 河合ビル2F
TEL: 090-8653-4777 FAX: 054-348-0044
公式FB: https://www.facebook.com/2011ARTY

第15回チャリティー忘年会 日本と雲南少数民族友好のタベ



▲太極拳を応用した健康体操に全員でチャレンジ!



▲日本航空株式会社様より JAL SKY WiFi カードを全員にプレゼント



▲蔡磊三等書記官(右)、新井淳一協会顧問(中央) 馮振三等書記官(左)

厳顧問が乾杯の発声をしました。

今回は名古屋から中国武術家の張成忠先生と奥様の小野昌子先生も参加頂き、忘年会のメインイベントとしてのご夫妻の指導によるユーモア溢れる太極拳「健康体操」を会場の皆さん全員で楽しみました。華やかな民族衣装をまとったボランティアの雲南からの女子留学生達は、参加された方々と国際交流をさらに深めることが出来ました。日本航空株式会社の隋千秋さんは、以前より善意で寄附を頂いておりましたが、この夜の忘年会にはJALの機内で使用できるWi-Fiカード100枚ほどを提供して頂きました。この場をお借りしてご協賛の企業の方々にお礼申し上げます。今後も企業様と共に社会貢献活動を積極的に取り組んでいきたいと考えております。



▲雲南省からの留学生達もボランティアで参加!

協力(順不同、敬称略) サッポロホールディングス株式会社、株式会社技術評論社、株式会社京王プラザホテル、日本航空株式会社、全日本鉄道労働組合総連合会、参加者全員・ボランティア協力(順不同、敬称略) 塚田民枝、蛭名樹理、志村敏子、張昱、季瑞穎、田蕾、盧是之、劉寬艶、楊鑫、土田淳志、佐々木英介、上原正夫、宋愛平



張成忠先生(右) 小野昌子先生(中) 厳顧問(左)

張成忠……中国武術家。1959年、中国江蘇省徐州生まれ。5歳より少林拳を学び、1986年には中国武術最高ランクの「武英級」の称号を得る。現在は中国南京体育大学、愛知大学、名古屋大学、中央大学で教鞭を振る。

故岩間辰志 顧問「お別れの会」 今まで ありがとうございました



故 岩間辰志 顧問

昨年11月に逝去されたサッポロホールディングス株式会社元代表取締役社長で協会顧問の岩間辰志さんの「お別れの会」が1月18日(月)、東京都千代田区の帝国ホテルで行われ、1,000名を超す関係者が参列しました。同会は、同社の上條努代表取締役社長が主催、喪主は妻・祥子さんと、協会からは初鹿野恵蘭理事長ら役員・顧問10名が参列しました。岩間さんは2008年に協会顧問に就任。2008年の恵比寿麦酒記念館(東京都



2012年サッポロファクトリーでの写真展



都筑信顧問昭子さんとご夫妻と初鹿野恵蘭理事長

渋谷区)と2012年のサッポロファクトリー(札幌市)での写真展をはじめ、雲南省経済交流会や日雲人材育成事業など様々な事業でお力添えいただきました。2012年には「25の小さな夢基金」サポーターとして協会主催の「ふれあいの旅」で初めて雲南を訪れ、



「お別れの会」で展示された雲南訪問

生徒たちと交流しました。お別れの会では、岩間さんの功績をパネルや映像で紹介、協会提供の写真も展示されました。岩間顧問の雲南の子どもたちに対する優しい心と強い志を引き継ぎ、協会はこれからも活動を続けます。

イベント報告

2016年旅日華僑人新春招待会 初鹿野恵蘭理事長 出席

春節を祝う中華人民共和国駐日本大使館主催の旅日華僑人新春招待会が1月15日(金)に開かれ、初鹿野恵蘭理事長を含む各界の在日華僑・華人約400名が出席しました。程永華特命全権大使は「今年は中国の第13次五カ年計画始まる年で、小康社会(ゆと

りある社会)全面実現の始まる年でもある。各国と共に美しい未来、恒久平和、調和のとれた世界建設を推進する」とあいさつしました。会場では歌や踊り、トランペット演奏などが披露され、春節の雰囲気盛り上げました。



王軍総領事(左)と初鹿野恵蘭理事長(右)

第36回 八王子いちよう祭り テーマ: おもいやりの心 おもてなしの心 やさしい心 「YESをはじめよう!」

第36回八王子いちよう祭りが11月21日(土)と22日(日)に開かれ、協会は今回も並木町郵便局隣の空き店舗に出展しました。天候に恵まれ、例年より気温が高かったためか、入出は約52.2万人(主催者発表)と去年を上回りました。今回は峰尾勝美リーダーを中心に、雲南からの留学生、グローバルフェスタで協会を知った日本人大学生などがお手伝い。雲南少数民族の衣装を身にまといプーアル茶の試飲をすすめたり、協会活動を説明したりしました。ボランティアの張昱さん(雲南大学4年生で大妻女子大学短期留学中)は「とても寒かったが友達と参加して楽しかった。美しい銀杏を見て日本の秋を強く感じた。」と感想を述べました。



主催:
八王子いちよう祭り祭典委員会
ボランティア協力(順不同、敬称略): 峰尾勝美、峰尾洋子、楊鑫、程恬、張昱、李瑞穎、余菊丹、徐曼、菊地貴博、森保次郎、蛭名樹理、平田栄一、佐々木英介、土田淳志

特定非営利活動法人 21世紀のカンボジアを支援する会 『メコンの風に吹かれて』 出版記念祝賀会

初鹿野恵蘭理事長 林則幸理事出席

協会の根岸恒次顧問が理事長を務める特定非営利活動法人「21世紀のカンボジアを支援する会」がこのほど、ブログを1冊の本にまとめた『メコンの風に吹かれて』を出版しました。出版記念祝賀会が12月5日(土)に横浜市内で開かれ、同会会員30名と協会から初鹿野恵蘭理事長と林則幸理事が出席しました。「支援する会」は協会とほぼ同時期の創立で、協会と共同写真展を開催したりしています。協会は今後も同会とともにアジアの子どもたちのために活動を続けていきます。

根岸恒次 協会顧問(左)と初鹿野恵蘭理事長(右)



JR総連 2016年 新年の集い

初鹿野恵蘭理事長ら出席

武井政治 執行委員長(中央)

全日本鉄道労働組合総連合会(JR総連)の2016年新年の集いが1月8日(金)、目黒雅叙園(東京都目黒区)で開かれました。同総連は協会の法人会員でもあり、初鹿野理事長、滝澤崇理事、林則幸理事を含む関係者500名以上が出席しました。武井政治執行委員長は「自らの手で、平和で公正・公平な社会を実現しましょう」とあいさつしました。



左から 永島守さん(会員)、初鹿野恵蘭理事長、松田和久さん、田村豊さん(会員)

キッツグループ 新年賀詞交歓会

初鹿野恵蘭理事長 林則幸理事 出席

バルブなどの流体制御機器メーカーで、協会法人会員でもあるキッツグループの新年賀詞交歓会が1月5日(火)に東京都千代田区の帝国ホテルで開かれました。500名を超す関係者が招かれ、協会からも初鹿野恵蘭理事長と林則幸理事が出席しました。同社の堀田康之社長は「我々の作ったバルブが未来を切り拓いていくことを期待し、明るい一年にしよう」とあいさつしました。



大宮支部新年会

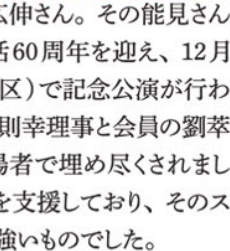
毎年、開催を楽しみにしている会員も多い、大宮支部恒例の新年会が1月10日(日)に寺内明子支部長宅で開かれました。8年ぶりの懐かしい顔や新たに入会した会員など、去年より多い29名が集まりました。テーブルにはボランティアによる手作り餃子、タイ料理、そして支部長お得意の雲南料理と様々な料理が並び、舌鼓を打ちながら2016年の大宮支部の活動について話し合いました。会員の王珊さんのひょうたん笛の演奏にあわせて踊るなど会員同士の懇親も深まりました。



ひょうたん笛を演奏する王珊さん(右)

寒水泰江舞踊生活60周年記念公演 「舞い踊る人生」

協会法人会員でダンススクールを運営するブランニューダンスマーケットの代表・能見広伸さん。その能見さんの踊りの師匠である寒水泰江先生が舞踊生活60周年を迎え、12月27日(日)になかのZERO大ホール(東京都中野区)で記念公演が行われました。協会からは初鹿野恵蘭理事長、林則幸理事と会員の劉萃さんがお祝いに駆けつけ、会場は大勢の来場者で埋め尽くされました。寒水先生は踊りを通じて日雲の文化交流を支援しており、そのステージは79歳の年齢を感じさせない優雅で力強いものでした。



2016年 活動予定

※●: 日本 / ■: 雲南

- | | |
|-----|---|
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 初鹿野恵蘭理事長雲南視察 ■ 雲南支部 冬期インターンシップ |
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 新年度会費請求 |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 2016年度第1回理事会及び役員顧問会(東京本部) ● 第16回定時総会(東京) ● さいたま国際友好フェア(さいたま市) ※会報誌「彩雲の南」57号発行 |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ふれあいの旅・春蕾卒業式の旅(雲南各地) ■ 「夢は叶う」講演会(昆明) ● 共同写真展「アジアのこどもたち」(横浜市) |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 「25の小さな夢基金」第7期卒業式(昆明) ■ 「25の小さな夢基金」上海日本人学校交流会(上海) |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 2016年度第2回理事会及び役員顧問会(東京本部) ■ 雲南支部 夏期インターンシップ ※会報誌「彩雲の南」58号発行 |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ふれあいの旅・小学校25校目開校式の旅(雲南・徳宏タイ族景頗族自治州の盈江県) ■ 第4回日本雲南大学生交流スタディツアー(雲南各地) ■ 春蕾11期生入学 |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ● グローバルフェスタJapan2016(東京) ● 第12回雲南省教育支援チャリティーゴルフコンペ(山梨県) ● さいたま国際ふれあいフェア(さいたま市) ● 上尾ワールドフェア(埼玉県上尾市) |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 2016年度第3回理事会及び役員顧問会 ■ 第5回日本文化理解研修(雲南) ● 第37回八王子いちよう祭り(八王子市) ※会報誌「彩雲の南」59号及び特別号発行 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第15回チャリティー忘年会(東京) |

お知らせ

「25の小さな夢基金」第8期生 愛と感動の旅立ち 「ふれあいの旅」

自然豊かな玉溪で
花腰タイ族の村を訪ね

雲南の少数民族
女子高生をサポート

する「25の小さな夢基金」の第8期生が、7月に卒業します。協会はこの時期、支援生の卒業式に出席し春蕾卒業生のふるさとを訪れるツアーを毎年実施しています。今年も6月末から約1週間の日程でツアーを行います。

見どころ

- 感動的な春蕾卒業式参列
- 春蕾卒業生のふるさと「玉溪」訪問
- 国家重点風景名勝区で大自然とのふれあい
- 花腰タイ族の生活を体験
- 「50の小学校プロジェクト」支援校訪問など



皆さんの参加をお待ちしています! 春蕾卒業生の家に民泊 少数民族家庭料理も楽しみの一つです

●「50の小学校」プロジェクト
支援25校目 中日友好勸業愛小学校
開校式「ふれあいの旅」9月開催予定
「ふれあいの旅」のお問い合わせは協会事務局まで

編集後記

春節を前に、夢基金で支援する高校生が里親の皆さんに書いたお手紙の翻訳のお手伝いをしました。多くの学生が大学受験へのプレッシャーに触れています。日本では最近、

予備校や塾に通えず子どもたちの間に学力の格差が生まれることが問題になっています。そういう意味では、学校でしっかり勉強すれば大学進学夢のかない中国は健全な

のかもしれない。今年はうちの娘も高校受験です。どこの国も受験の苦しみは同じ。みんな、がんばれ!

(編集長・木本一彰)